




2023 年度大学院看護栄養学研究科栄養管理学専攻 学位論文審査報告書

学籍番号	20182101	学生氏名	泉 史郎
学位論文 題 目	COVID-19 流行下における遠隔支援によるフレイル予防のための筋力トレーニングと栄養指導が地域在住日本人高齢者の身体組成と筋力に及ぼす影響		
主 査	鈴木 純子 	副 査	河口 明人 
			清水 真理 

学位論文の内容の一部を筆頭著者として投稿し、日本学術会議の登録学術研究団体である日本体力医学会の英文誌 The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine に 2023 年 11 月 17 日付で受理されている。よって、論文審査の条件を満たしている。

本学位論文の研究テーマは、高齢者の介護予防に着目し、遠隔支援を活用した運動指導と栄養食事指導が有効であるかを評価することを目的としており、このテーマは当該専門領域における重要な課題である。

この研究の緒言と目的において、サルコペニアの予防と改善に寄与する食生活と運動について、日本および海外の文献を広く引用し、研究課題における背景や問題点の分析を行っている。これらの系統的文献収集と批判的読解を通して、先行研究において ICT を活用した健康支援と疾病治療に関する研究は存在するものの、高齢者の介護予防に与える影響については明らかになっていない事を導き出し、研究目的を提示している。

研究デザインは無作為化探索的 2 相（フェーズ II）試験であり、対象者と研究者がブラインド化されていない非盲検化試験として計画されている。無作為化は層別置換ブロック法を用いて、3 群に割り付けており、適切な方法を選択している。研究は臨床研究のルールに則り、天使大学研究倫理委員会の承認を得て実施されており、倫理的配慮も問題が無い。また、臨床試験登録も行っている。

研究の成果として、1 ヶ月は対面指導、2 ヶ月以降は遠隔指導を組み合わせた 12 週間の運動指導と栄養指導の介入は、北日本の地域在住の高齢者において、フレイルを予防するために、筋肉量と筋力を改善し、十分なエネルギーとたんぱく質の摂取を維持するのに役立つ可能性があるという新たな知見が得られている。

論文の記述は、研究の背景・目的の整理から考察まで、学術論文の一般的なスタイルで論文をまとめ上げている。

論文審査会においては研究結果を根拠にして、質問に対する的確な回答をしていた。査読の回答にも的確に回答し、修正を行った。

提出論文は博士後期課程の論文審査基準を満たしており主査及び 2 名の副査は全員一致で「合」と判定した。

▼どちらかに○

判定	<input checked="" type="radio"/> 合 <input type="radio"/> 否
----	--